

子育てラボ

今週は 幼児期



10日は目の愛護デー 子どもの目について 考えよう～弱視～

10月10日は「目の愛護デー」です。今回は、視力障害の中でも特に早めの治療が大事な「弱視」について北部眼科・小児眼科の渡邊亜希副院長に聞きました。

生まれてすぐの赤ちゃんの目は光を感じる程度しか見えません。生後2カ月ごろから徐々に物の形や色を判別し、目を動かして物を見るようになります。5歳～6歳ごろには大人と同じくらいの視力になります。

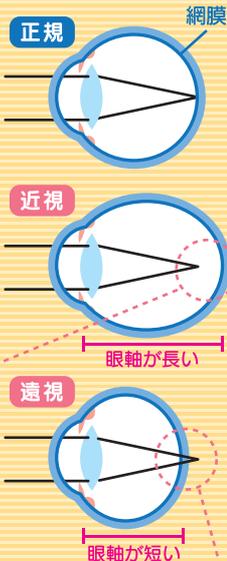
視力
成長

弱視とは

弱視には、先天性の白内障など目の病気で視力が悪いものと、斜視や強度の屈折異常(遠視・近視・乱視)があって視力が上がらないものがあります。視力が発達する時期に、網膜に適切な視覚刺激を受けなかったために、眼鏡をかけても視力が上がらない状態です。

【屈折異常】
網膜に焦点が合わず、
物がはっきり見えない。

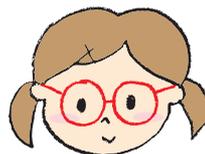
〈目の断面図〉



弱視の治療法

眼鏡をかける!

弱視の治療は、眼鏡で網膜にピントをきちんと合わせ、視機能の発達を促すことが基本です。



アイパッチを貼る

片目だけが弱視の場合、良い方の目を隠し、悪い方の目だけで見るアイパッチ訓練を行います。



家庭で弱視を発見するには...

見えづらそうにしている、テレビに極端に近づくなどは弱視のサインかも。小さい子どもは「見えにくい」とは言わないので、親は「まだ小さいから」とためらわず、一度眼科に相談してください。



教えてくれたのは

3歳半健診を受けても、視力障害が見落とされている場合もあります。弱視はとにかく早期発見し、7～8歳までに治療を完了しておくことが大切です。

北部眼科・小児眼科
渡邊亜希 副院長



smileスナップ

※月齢・年齢は撮影当時のものです



ゆづし(大きくなっちゃん)
▼上益城郡益城町 8カ月
久保田悠聖くん



ババとお風呂が大好き!
▼中央区国府 3カ月
中松勇翔くん



お座りが上手になったよ!
▼中央区黒髪 7カ月
前村昇希くん

お便り大募集

読者の皆さんの子育てに関する「教えて」「調べて」を大募集。VIVAからの声もお待ちしています! コメントに住所・氏名・年齢を添えて下記までお送りください。お便りの採用者には500円分のQUOカードをプレゼントします。

〒860-8506 ※宛先住所は不要
すばいす *spice「子育てラボ」係
FAX096(372)8710
spice.spice@kumanichi.co.jp



毎月2回、金曜の熊日朝刊に掲載「くまにちキャラット」
毎月第1・3土曜発行の「あれんじ」でも、子育て情報発信中です!

休日在宅
当番医情報

熊本市のホームページ <http://www.city.kumamoto.jp>
携帯用アドレス <http://www.city.kumamoto.jp/defaultM.aspx>

トップページ
から検索でき
ます。